

松嶋夜話 卷之下 49

〔原文〕此年仲秋十三日也

〔訓読〕此の年の仲秋の十三日なり

〔原文〕此夕氣仙泣保正熊谷氏遣一族者爲專使

〔訓読〕此の夕、氣仙沼の保正、熊谷氏、一族の者を遣して、專使と爲す

※保正…姓？官職？地名？

〔原文〕請來來日狂駕

〔訓読〕來來として日の狂駕を請ふ

〔原文〕依懃意逼應請

〔訓読〕懃意逼るに依りて、請に應ず

〔原文〕其月十五日赴于某地

〔訓読〕其の月十五日、某地に赴く

〔原文〕保正熊谷氏及村甲市長郵長等數十人出于郊野跪于路旁

〔訓読〕保正、熊谷氏及び村甲、市長、郵長等數十人、郊野に出でて、路旁に跪づく

〔原文〕又華藏寺慈恩寺二長老遠來出迎

〔訓読〕又華藏寺、慈恩寺の二長老遠く來りて、出でて迎ふ

〔原文〕郡吏差於蹕夫兩頭清道矣

〔訓読〕郡吏、蹕夫兩頭を差し、道を清めしむ

〔原文〕聿入保正之正廳款待不啻

〔訓読〕聿いに保正の正廳に入りて、款待して啻ならず

〔原文〕饗應臘等

〔訓読〕饗應等を臘む

〔原文〕此所有天台密宗寺院

〔訓読〕此の所に天台密宗の寺院有り

〔原文〕執贄相訪

〔訓読〕贄を執りて相い訪ふ

〔原文〕余答信無物

〔訓読〕余答信し物無し

〔原文〕只以自画繪贄矣

〔訓読〕只だ自画の繪贄を以てす

〔原文〕又市酈婆子老婦接武來參

〔訓読〕又た市酈の婆子、老婦、武を接し來參す

〔原文〕各各捧繭絲拜投

〔訓読〕各各繭絲を捧げて拜投す

〔原文〕夜更主人出而請明月賦

〔訓読〕夜更、主人出でて、明月の賦を請ふ

〔原文〕謂曰若蒙賜尊章傳之子孫

〔訓読〕謂いて曰く、若し蒙むらば、尊章を賜うこと、之を子孫に傳ふ

〔原文〕證於象駕至于茲矣

〔訓読〕象駕の茲に至るを證らかにせんと

〔原文〕余走筆曰

〔訓読〕余筆を走らせて曰く

〔原文〕投宿氣仙沼旅郵

〔訓読〕宿を氣仙沼の旅郵に投ず

〔原文〕主人待我對江樓

〔訓読〕主人、我を待って、江樓に對す

〔原文〕話彈捐話以前月

〔訓読〕

※この文章よくわかりません

〔原文〕不占風流虚渡秋

〔訓読〕風流を占めず、虚しく秋を渡る

〔原文〕此夜月暈

〔訓読〕此の夜の月暈（くも）る

〔原文〕以故示趣意矣

〔訓読〕故を以て趣意を示す